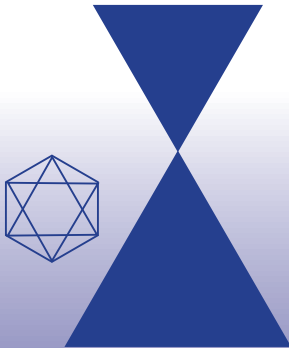


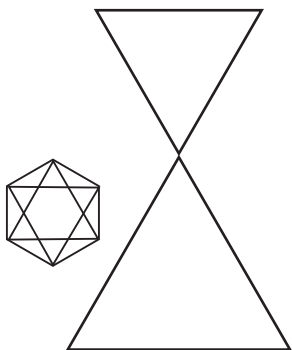
Dragon eBooks

Twitter おもしろ論



岩本隆介
@eMags_Iwa

目次



まずは、使ってみなはれ。

.....

7

使ってみる事が一番の早道。最初からあれこれ本を読むより、まずは使ってみなはれ。とお薦めする。先入観は物事の本質を見誤る場合が多い。

Twitterとはなにか

.....

10

リアルタイム・ショートメッセージサービス。

Twitterの誕生 14

Twitterの誕生は、2006年8月米国Obvious社によってスタートした一つのサービスであり、2007年5月Twitter社に引き継がれ運営されている

Twitterの設定 17

Languageの設定でEnglishを選択することで、RetweetなどTwitterの最新機能が使用可能となる。

Twitterの機能

.....

21

一度PostしたTweetは編集できない。間違えた場合は、その後には訂

正のTweetをPostするか、間違えたTweetを削除して、新たな

TweetをPostする。

Twitterの使い方

.....

28

Twitterの使い方は人それぞれ、ビジネス、アイデアメモ、コミュニケーション、
アプリエイト、ギャグ、独白など違法ではないTweetsは何でも許容されている。

TwitterのTL（タイムライン）マネジメント…………… 34

TL | Timelineはfollowした人のTweetsが流れる、言葉の洪水である。followが少ないと、ちよろちよろしか流れない村の小川かも知れない。

Twitterのクライアントソフト・Webサービス…………… 40

Twitter Search、Twipic、ふあぼったり、Twilog、
twinaviなど。

Twitterはおもしろい
.....

百人いれば百の面白さ、千人いれば千、万、千万、億の面白さがある。

はじめに

オバマ大統領がどうしたとか、イラクの情報はどうしたとか、そんなことは良いのだが——いや、決して良くはないが、かなり自分の実生活とはかけ離れている——このところ周りでTwitterの話しが花盛りである。と言うのが、この秋口の話。ああ、あのミニブログね、と、話題に加わったら、そりや違うと言われた。

何が違うのだろうか、と言うことで、随分前に登録したアカウントを思い出そうとしたのだが、ぜんぜん思い出せない。それではと新たにアカウントを取得したのがTwitterライブの始まりである。

元来、ミーハーな性格は、有名人、芸能人を探してはfollowし、そのTweetsを盗み見るような奇妙な感覚を味わったのだが、考えてみると、本人達が公開しているTweetsをfollowして見せて貰うのになんの遠慮もいらない。

しかしこの感覚は何だろうと考えてみると、それらの人がBlogに書いているのとは文体が違う場合が多い、よりリラククスして会話口調で、日常の出来事をTweetしている。つまりBlogが今や外部への情報発信のメディアとして、オコシフォーマルな感覚でテーマに沿って、伝えたい

内容を構成、推敲し書かれているのは事なり、よりその人に近づいた感じを受けられるからだろう。自分の Tweets を公開している人は自分の Tweets が follow され見られるのを殆どの場合、喜んでいよう。と言うことで、どんどん follow を増やしていくのだが、そうこうする内に follow した方から Direct Message で「フォロー有難うございます。」などと届くようになり「こちらこそ、宜しく御願います。」など返信するのだが、そんな律儀に、これは Twitter の流儀か知らん、などと思うのだが、どうも Mixi など SNS あたりからソーシャルメディアを使い始めた人が多いようで、その流儀であるようだ。

そうでない方は follow、remove は自由になどと自己紹介の bio に書いている。

多くの方を follow する時に bio とそれまでの Tweets の内容を拝見して興味を覚えたら follow するようにしているのだが、bio にまったく書かない人も書いていない人が沢山いるのには驚いた。セキユリティーの為だとは思いますが、実名主義で育った物には、ネットワークがらみで何か不愉快な目にあった人が多くいるのだろうか、困った物だとの印象を受けている。とは言え、加入者をかなり厳しく制限し、最初は実名主義であった Mixi も匿名を薦めるようになったので仕方のないことなのかも知れない。

今はまだ、Twitter ユーザーはイノベーターとアーリーアダプターで構成されているようである。しかし、キャズム越えは目の前だろう、Mixi がそうであったようにマジョリティーの大量参

入が予想される。

ビジネスに使うか、遊びに使うかは問わないが、Twitter本も出揃った、マジヨリテイーの参入前の今が、そろそろTwitterを使い始めるには良い時期ではなからうか。MixiなどSNSの変貌がそうであったようにTwitterも変貌するだろう、歴史の目撃者としてはと言うのは大げさかも知れないが、体験することのできる事は体験したほうが面白い。

ではと、本屋に走るのではなく、まずはTwitterを使ってみて、その後本を読んで見るのが良い、そうすることでそれぞれの著者の言わんとしていることが容易に理解できる。

2009年12月28日

岩本隆介

Twitter おもしろ論

まずは、使ってみなはれ。

使ってみる事が一番の早道。最初からあれこれ本を読むより、まずは使ってみなはれ。とお薦めする。先入観は物事の本質を見誤る場合が多い。



まずは、使ってみなはれ。

使ってみることが一番の早道。最初からあれこれ本を読むより、まずは使ってみなはれ。とお薦めする。

日本人は往々にして形から入るものだが、かく言う私もその範疇を免れない、しかしTwitterは習い事ではなく、使い方に正解はない。というよりも、どのような使い方であつても、今、使っている使い方が正解だろう。習うより慣れろである。

Twitterにあるルールは140文字以内でPost(ポスト)すると言うことだけであり、—もとより、140文字を超えるとPostすることはかなわない。—その他にルールが存在するとすると、それはTwitterに特別な物ではなく、一般社会常識に属するルールである。ネチズンなどネット特有のルール云々を言う方もいるが、単なるローカルルールである。また、Twitter特有の、何となく大勢のユーザーがやり始めた方法が広まっているローカルルールというのはあるのだが、これも、そうしなければいけないというルールではない。今でも、こうしたような提案がなされている。宜なるかなと思えばそのルールを採用すればよいし、そうでなければ気にする必要はない。

どのような組織においても明文化されたルールの他にその組織の文化というか、変化しながら守られている暗

黙のルールが存在する。Twitterにおいても暗黙のルールが存在し、現れては消えてゆく。人はルールを作りたがる物である。人とのコミュニケーションである、まったく無視するというのではなく、ほどほどに付き合えば良いだろう。

Twitterは使っている内に慣れるのだが、そうすると自分のやりたいことが見えてくる。とは言っても、Twitterのタイムライン・マネジメントに失敗すると、なんだこれ! となったり、やっぱ解らないと成る方もいるだろう。

と言うことで、ちよこつと解説などをしてみようか。です。

Twitterとはなにか

リアルタイム・ショートメッセージサービス。



Twitter とはなにか

リアルタイム・ショートメッセージサービス。サービスのスタート直後はミニブログという紹介のされ方だったが、今は Twitter 社の説明通りリアルタイム・ショートメッセージサービスというのがほぼ当たっているようだ。

確かに、ブログのサマリーのみを表示しているサイトと見たところは似ているかも知れない。ミニブログと表現するのも解るが、Twitter にはサマリーの本文がない。HTML 文字或いはそれ以下のショートメッセージのみである。もちろんそのメッセージにブログへのリンクを含めることで、まさにサマリーとして使っている例も見受けられる。しかし、Subject (表題) が無い点が異なっている。

人は会話をする時に、表題を述べてから話しをする訳ではない。つまり、Twitter における Tweet はより会話に近いと言える。勿論キーボードをタイプするのと会話とは異なるのだが、例えば iPhone のアプリケーションに「シャベツヤ〜」というのがあるらしい、これはその名の通り、iPhone に話しかけた言葉を文字に変換するアプリケーションである。これならもつと会話に近い文章ができあがるに違いない。これがリアルタイム・ショートメッセージということであり Twitter はそのサービスプロバイダーであるという事である。

Twitter 社はリアルタイムという言葉にこだわりがある。Realtime Search (リアルタイム検索) という言葉を使っている。Google は過去の検索、Twitter は今の検索、今、ユーザーが何を求めて、何を考えているか、何をしているか、

これを知ることができ、或いは、近未来の出来事をも探ることが出来ると Time Line に流れる Tweets の新鮮さにこだわっている。

また、Twitter 社は 2013 年に 10 億人のユーザーを獲得する世界で初めての Web サービスになるという目標を掲げ、「その時 Twitter は地球の鼓動となる」、詩的に表現しているが、これは何を意味しているのだろうか。

インフラとしての Twitter を目標としているのか、それとも、もつと別の次元のサービスを考えているのだろうか。2013 年のインターネットユーザは 20 億と推定されているが、その半数の 10 億をユーザーとして抱えた時、Twitter は変貌するのだろうか。

答えは、今、これから Time Line (TL) に現れるだろう。

未来は今、現在の延長線上にある。Twitter が忠実に今、現在を TL 上に再現しているなら、必ず Twitter の未来は TL に現れる。それは、名を知らぬ人の Tweets かも知れない。多くの人の Tweets かも知れない。

TL を流れる多くの Tweets は、今書き込もうとする Tweet の内容を改変する。会話であっても口から出る言葉は脳内で編集され発せられる、しかし、キーボードを操作するということは Tweet の編集作業を長引かせ、その間にも TL には多くの Tweets が流れていき、発しようとする Tweet の内容を改変せざるを得ない状態を作り、音と文字の違いもあり、また、顔を見ながら話すのとは違い明らかに会話で発せられる内容とは違った Tweet になるだろう。

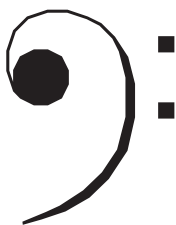
しかし、ネットワークにおいて Talk、Messenger などの P2P ショートメッセージ、或いはチャットというリアルタ

イムコミュニケーションを使い慣れた人々にはキーボードでの入力もさほど障壁にならない事が考えられ、より会話に近い Tweets が今後も増えるだろう。

これも全ては自分の TL をどうマネジメントするかで、流れていく Tweet は如何様にでも変化する。このように多くのユーザーの Tweets はその TL により変化するが、意図せず同期する Tweets が Twitter の未来を決定することになるだろう。

Twitterの誕生

Twitterの誕生は、2006年8月米国Obvious社によってスタートした一つのサービスであり、2007年5月Twitter社に引き継がれ運営されている。



Twitterの誕生

Twitterの誕生は、2006年8月米国 Obvious 社によってスタートした一つのサービス。その後2007年5月 Obvious 社のメンバーにより、Twitterを主たる事業とした Twitter Inc. が創業され、現在 Twitter 社にサービスが引継がれ運営されている。

現在 Obvious 社が何をやってるか、何かを模索し、様々なアイデアを試していることは確かであるが、一例として iPhone を使ったクレジットカード決済の為の安価なハードウェア、ソフトウェアの開発、サービスの提供などを試みているようだが、確かな事はまだ見えてこない。Obvious 社の声明通り Twitter の普及にその大半の資源を投入しているようだ。

Obvious 社の創業者はジャック・ドーシーとエヴァン・ウイリアムズ。そのエヴァン・ウイリアムズは Pyra Labs 社に在社時 Blogger — 現在 Google により提供されているブログサービスの開発を担当、Google により同社が買収された折、Google の社員となったがスピンアウトし、Obvious 社を創業したという経緯がある。

Twitter の基本的な構想を考えたのは Obvious 社のもう一人の創業者ジャック・ドーシーであり、SMS(ショート・メッセージング・サービス)の共有、そのリアルタイムのルーティング・システムを模索して Twitter の着想を得たそうである。そのため Twitter ではユーザーアカウント名などの為にマージとして20文字を残し、本文140

文字という文字制限が定められた。

この Obvious 社で Twitter を開発していたメンバーの中に後にジャック・ドーシーとエヴァン・ウイリアムズと共に Twitter 社の創業メンバーとなるピズ・ストーンもいた。

Twitter の設定

Language の設定で English を選択することで、Retweet など Twitter の最新機能が使用可能となる。



Twitterの設定

Twitterはメールアドレスとパスワードのみでアカウントを取得できる。アカウントは英数字とアンダースコアスペースはもちろんコンロンも利用できない。なんだか古の計算機でのディレクトリーとかユーザ名の命名規則のようだ。ーのみのようだ。好みのアカウント名をつけることができるが、Twitter社ではユーザー全てを一元に管理しているため、他のユーザーと同じアカウント名をつけることは出来ない。早い者勝ちである。

アカウントを取得してログインすると、Home、Profile、Find People、Settings、Help、Sign outのリンクがある。このリンクからSettingsをクリックすることで、Name、Username(アカウント名)、Email、Time Zone、More info URL(Webサイトなど)、One Line Bio(一行自己紹介)、Location、Languageを設定する画面が開き、それぞれを設定することができる。

尚、LanguageでEnglishを選択することで、RetweetなどTwitterの最新機能が使用可能となる。――2009年12月25日現在、日本語にローカライズされたサービスではRetweetは使用できない。――そのLanguageの後のチェック Box Protect my tweetsでTweetsを公開するか否かの設定を行なう。このプロテクトではmixiなどSNS(Social Networking service)の日記の公開範囲のように友達のみとか、友達の友達とかの設定はできない。プロテクトして非公開にするか、プロテクトせず公開するかの二者択一である。

また、Locationの後のチェック Box *Enable geotagging* では Tweet がどこからポストされたか現在位置を記録するかどうかの設定である。ただし、GPS機能付のデバイスから Tweet がポストされなければ、この機能は使えない。この機能を ON にして、GPS機能付のケータイから「今、パリなう」などと東京の自宅からポストすると、その嘘はばれてしまう。ご注意ください。しかし、何かのサービスを求めて Tweet した場合、この位置情報を取得してサービスを提供するプロバイダーが現れることが予想される。

例えば「腹減ったー。」などと Tweet すると、すぐさま割引クーポンつき、地図情報付きの「お勧めメニュー」は○○です。是非のご来店をお待ちします。」と言う様な Tweet が自分宛に届くかも知れない。

さて、アカウント名とは別に名前の設定を Name で行なう。この設定で name に実名を記載するかどうか。アカウント名の Username はハンドルネームとかニックネームみたいな物で何でも良いのだが、Name 欄の問題は難しい。初期のインターネットは実名主義であった。実名とは本名またはペンネーム、芸名など一般的に本人を特定できる名称のことである。

今はインターネットユーザーが増えて、ネットワークとは何かという事を知らない方々が日常的にインターネットを使ってコミュニケーションを取ったり買い物するなど様々な用途に使用している。

Twitterでも、既にユーザー数が全世界で1億人を突破しようとしている、日本においても200万人を越えて利用者が増えている。どのようなコミュニティでも自由参加であればそこには悪意を持った人が混じらないとは

限らない。参加制限をしているはずのSMS、例えばLINEなどにおいても実名主義から変更をせざるを得ないという実態がある。

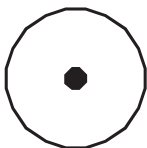
実際の世界において名前を出して仕事をしているビジネスマン、政治家、芸能人、その他の方は実名を出すことのリスクと利益を承知しているから良いが、そうでない市井の方は、ネットワークとどう向き合い付き合うか、しつかりとした考察が必要だろう。

ネットワークでは、残念ながら実社会より成りすましなど他人を欺くことが容易に行なわれている言えるだろう、その為、悪意持った者には詐欺などの犯罪行為が行ないやすく、危機管理が未熟であると犯罪に巻き込まれやすく、被害に遭うことがあるかも知れない。

最初は危機管理の為、実名を隠し、ネットワークに慣れ危機管理のイロハを習得してから、実名に変更するのが良いだろう。何故なら、Twitterはソーシャル・メディアである、Twitterを利用する目的を考えると、コミュニケーションが大きな比率を占めるだろう。となると、実名でTweetすることの方がその目的に適している。

Twitterの機能

一度PostしたTweetは編集できない。間違えた場合は、その後訂正のTweetをPostするか、間違えたTweetを削除して、新たなTweetをPostする。



Twitterの機能

Tweet

140文字以内で「What are you doing?」「What's happening?」という問いかけに答えをポストする。しかし、必ずしもその問いかけに対する答えをポストする義務はない。つまり、何を書こうが自由である。ただし、違法なことは駄目。

Reply

返信機能。followした人のTweetsにマウスのカーソルをあてると出てくる。自分のTweetsにカーソルをあててもReplyは出ない。

Delete

削除機能。Twitterには再編集の機能はない。ポストするかポストした自分のTweetsを削除するかのみ。自分のTweetsにマウスのカーソルをあてるとDeleteの文字が出てくる。

☆マーク

Tweetsにマウスのカーソルをあけると出てくる。クリックすると色が黄色に変わり、Favorites（お気に入り）に登録される。

Retweet

Twitterユーザーの間で始まった他者のTweetに自分の意見を加えてポストする場合にRTと省略して使う。メールで返信する場合にsubjectの頭にReが付加されるが、それと同じと考えても大きな間違いではないだろう。ただし、メールで使うReではなく、playに対するReplyのようにRetweetsのReは接頭語であり、tweetを再びtweetするという意味である。

※メールのReは、RFC 2822にラテン語の「Res」が語源で「何々について」という意味であると書かれている。ビジネスレターでもRegardingの意でReと書かれるが、メールではその習慣が採用されたのではないだろうか。

現在はこのユーザーから派生した慣習をTwitterでは取り入れて、機能として提供している。

Twitterの提供するFormalなRetweetは元のTweetsを改変、編集しないと言うことを原則とした機能として提供されている。これは、Reply元のTweetsを容易に改変、編集できる事から、誤って、或いは悪意を持って

Tweets を改変、編集し Retweet された場合、元の Tweet の意味、意図とは違った物になり、誤解を招くことになる。140 文字というショートメッセージでは少しの文字の改変、編集でも誤解を生みやすい。この事を懸念した物だろう。

※但し、先にも書いたように、現在は英語版のみに提供されているサービスである。日本語にローカライズされた環境ではサービスされていない。

Time Line

ポストした Tweets が時系列浴して、Twitter の自分のホームページに表示される。その時間順に並んだ Tweets。Time Line は TL と略される。Time Line については TL マネジメントでさらに考察を加える。

follow

友人、知人、気になる人の Tweet を購読すると言えよのだろうか。follow して初めて自分の TL に follow した人の Tweets が表示される。つまり、誰も follow しなければ、TL には延々と自分の Tweets だけが表示されるのみ。

follower

自分の Tweets を follow (購読) する人。不特定多数の人に見られたくない、読まれたくない場合は設定により、自分が許可した follower だけ読めるようにする事も出来る。この公開、非公開は細かく段階的には設定できない。例えば SNS の mixi の日記のように「友人だけと、友人の友人まで」などのような設定はできない。

list

follow した人を様々なリストに分類することができる。リスト作りに特別なルールはない。Twitterでは自分の TL に follow した人の全ての Tweets が表示され、カテゴリなどで分類されていない。BBS、SNS、メーリングリストなど他のサービスでは、まず、カテゴリがあり、自分が興味を覚えるカテゴリを購読するのだが、Twitterではそうではない。その TL をカテゴリライズする機能。リストだけで follow すると、そのリストの TL のみに Tweets が流れ、ホームの TL には流れない。これにより、リストの TL とホームの TL に違いが出てくる。尚リストは、他の人による follow が可能である。

Direct messages

一対一のメッセージサービス。ダイレクトメッセージは TL には流れない。他の人に見られたくない、読まれたくない内容をやりとりする為のサービスである。但し、ダイレクトメッセージの交換には互いの follow がいつ

用である。

Favorites

お気に入り保存した Tweets を見る。TL はどんどん流れていく。あれどこだ〜? あの Tweet は〜? という場合に favorite でお気に入り登録すれば後からの参照が楽になる。

Retweets

Twitter の提供する Retweet 機能を使って Retweet された Tweet を見る機能。Retweets by others、Retweets by you、Your tweets, retweeted の 3 つのタブで、follow している人の Retweets、自分の Retweets、Retweet やれた自分の Tweets を見る事が出来る。

※但し、現在は英語版のみに提供されているサービス。日本語にローカライズされた環境ではサービスされていない。

Tag

ハッシュタグ。タグ付けをする事で、同じ話題を共有することが出来る。アスキー文字によるタグの前に #

(ハッシュ) をつけ、前後に半角スペースを開けて Tweet の中で使用する。ハッシュタグの位置に特に決まりはない。タグの位置を先頭または後尾に置いた場合では当然ながら先頭では前、後尾では後の半角スペースは省略可能である。日本語によるタグ付けはハッシュとアンダースコアの間にタグを記述するようだが、明確な決まりではないように見える。

Twitterの使い方

Twitterの使い方は人それぞれ、ビジネス、アイデアメモ、コミュニケーション、アフィリエイト、パロディ、独白など違法ではないTwitterは何でも許容されている。



Twitterの使い方

Twitterの使い方は人それぞれ、ビジネス、アイデアメモ、コミュニケーション、アフィリエイト、パロディー、独白など違法ではないTweetsは何でも許容されている。

パロディーでは、例えばタモリbotという、あたかもタレントのタモリが言いそうなTweetsを繰り返しPostしているプログラムもある。それ以外にも、有名人の真似をしてTweetsするbot、輩もいる。このギャグとしての成りすましをTwitter社ではパロディーとして許容している。但しdicoなどに物まねである事を明記する限りという条件付である。物まねタレントと言うのもあるが、近頃ネットワーク上では成りすましによる犯罪も散見している、パロディー、物まねのTweetsはどうだろうか。杓子定規に言うつもりはないが、日本の文化に馴染むだろうか。

先日、2009年12月25日、総理大臣である鳩山由紀夫氏の名前を騙る@nihonwakaeyouというアカウントからのTweetsがPostされた。その日のニュースで来春から鳩山総理がTwitterを使い始めるという報道の後だけに、その真贋を巡って多くのTweetsがTLを流れた。内閣広報室、首相官邸などにも報道陣始め多くの質問が寄せられ、対応に大わらわだったそうである。

結局は騒ぎが始まって、暫くしてからオフィシャルな@twinaviからの正式なニュースを待てとのTweetもあり、また、民主党の議員からの総理は未だTwitterを使用していないというTweetもあり、騒ぎは始まって数時間で浜から波が引くように収まっていった。

その騒ぎを知らずに、遅れてTwitterにアクセスした方の中には、真摯に@nihonwokakeyou宛にfollowの申し込みを行ない、国民の声を聞くことを願う内容のTweetをされた方もいた。

この成りすましの輩はほんの軽いギャグのつもりで行なったようであり、悪意はないと、自身のブログで事の経緯、理由を述べ謝罪し、合わせて本人のTwitterのアカウントでも関係各位への謝罪を述べてはいる。

尚、@nihonwokakeyouからのTweetsは2009年12月25日当日とその翌日の26日だけで、今日2009年12月27日現在すでにそのアカウントは停止されている、Twitter社の日本の業務提携先であるデジタルガレージによる速やかな対応だろう。

しかし、これは紛れもない官名詐称にあたるだろう、その他法的にどのような罪が考えられるのか知らないが、物まね芸人は偽物であるからパロディーになる、@nihonwokakeyouはそのTweetsの中で「辞職はしません。政治生命をかけて、内閣総理大臣として一生懸命、国民の期待にこたえるために一生懸命頑張らせていただきます。」と総理であると明言している、これはいけない。今後どのように対応するのか政府、関係機関の動向を見守りたいが、一国の首相を詐称するこ

との罪は軽くはないだろう。今後のネットワークの信頼のためにも政府、関係機関は慎重に協議をして欲しい。

パロディの中でタモリbotを引き合いに出したが、botという特定のキーワードに反応して決められたTweetsを繰り返すソフトウェアのアカウントがある。これを人だと勘違いしてTweetのやり取りを続け、あれ、何か変だと思ったら、Tweet相手がbotだったという笑い話のような話しも聞こえてくる。都市伝説だろうか。しかし、例えば、これは役に立つbotで大いに助かるのだが、@recipetterというbotは、@recipetter宛に食材がTweetされると、お薦め料理とレシピをReplyで紹介してくれる。

それ以外にも、星占い、おみくじ、名言などをTweetsする様々なbotがある。また、少し検索してみると、プログラムの知識がなくとも自分でbotを作りTweetsする事ができるサイトを見つけることが出来る、アイデア次第で役立つbot、お笑い、ジョークbotなどお好みで作ってみると面白い。

ビジネスでは、多くの著書で紹介されているDELLの事例、New Orleansの小さなピザ屋NAKED PIZZAの事例、米国の格安航空会社JetBlue Airwaysの事例、ハイアットホテルの事例など枚挙に

暇がない。「ホテルの予約がまだだった。」というTweetに、ホテルチェーンからの空き室情報のReplyが届いたという事例は、確かにビジネスとしての魅力溢れるものであらう。ということ、ごくごくと企業アカウントが増えている。これが、デジタルガレージの当面の目的であるらしい。Twitterの使い方、危機管理を含めたコンサルテーション、アカウントの取得から、Tweetsの代行、データ解析によるマーケティングでの利用、バイラルマーケティングでの利用などなど。

政治家の利用。来春から鳩山総理もTwitterを使い始めるそうだが、また、自民党は多くの議員はTwitterの利用を推奨しているようである。

しかし、Twitterは面白いメディアである。140文字という文字制限とTLに流れる個人のTweetは政治家についつい公人である事、Tweetが公開されている事を忘れさせることがあるらしい。過去には不用意なTweetsをして聲譽を買った議員もあるようだ。

140文字という短文では充分に真意が伝わらない。幾つかのTweetを連続してポストし、真意を伝えようとしても、受け取る側はその連続するTweetsを編集して、或いは見落したり、一つを抜き取って、或いは選んで記憶する。10の情報もTweetsして一つ伝わるかどうか、かように情報を受け手に伝えることは難しい。

身振り手振りなどの表情、声の抑揚、高低もTweetsでは伝わらない、まったく反対の意味に取

られることがあることも理解していなくてはならない。くれぐれも、不用意な Tweets をしないことを祈らう。音声はやがて消えていく、しかし、文字によるログは音声よりもずっと長い間ネットワークの中に止まり続ける。

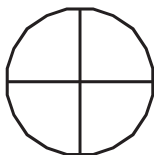
コミュニケーションでは、特定のアカウントを *follow* することで、そのアカウントを *follow* している人とのコミュニケーションがあたかもメンバーリングリストを購読するのと同じように成立する。その特定のアカウントをプロテクトしておく、そのアカウントの作成者の許可がなければ *follow* することはできない。つまり仲間内だけの会話が成立する。とは言っても、プロテクトされたアカウント宛の Tweets であっても Tweet を発した人を *follow* している人の TL にはその Tweets は流れて見えるのだが。

このコミュニケーションに特化したサイトは幾つかあるようだが、中から一つ「つつこ」と言うのを紹介しておこう。

<http://twicco.jp/>

TwitterのTL（タイムライン） マネジメント

TL || Time Line は follow した人の Tweets が流れる、言葉の洪水である。follow が少ないと、ちよろちよろしか流れない村の小川かも知れない。



TwitterのTL（タイムライン）マネジメント

TLとはなにか

TL || Time Line は follow した人の Tweets が流れる、言葉の洪水である。follow が少ないとちよろちよろしか流れない村の小川かも知れない。そこに流れる Tweets には意味がある。また、意味がない。Tweet する人には意味があるが、それを見る側、読む側には意味がつかぬ場合が多くあり、つまり意味をなさない Tweets も流れてくる。follow した人の何気ない Tweet、Tweets からはこととする着想を得ることもあり、面白い。普段使わない脳の部分が他の人の Tweets により刺激され活性化されるのかもしれない。

ただし、Twitter のサイトへアクセスしてインターネット・エクスプローラー等のブラウザを使用している方の TL は固定されたままである。Twitter 用のクライアントソフトは自動リロードの機能があり、毎分など一定時間毎に最新の TL がリロードされ、Tweets は下に流れ新しい Tweets と置き換わる。

ブラウザを使い Web 経由で Tweets を眺めるのではなく、試しに Twitter 用のクライアントソフトを使ってみることをお勧めする。

TLマネジメント

さて、誰をfollowするかでTLに流れるTweetsは異なる。この誰をfollowするかはすべて己の判断である。有名な人も多くは名前を知らない人々である、今後とも何かの係わり、交流が出来る可能性のある人は少ないだろう。積極的に交流を進める方々もいるが、営業を活動を展開している人の数は多くはないようだ。

例えばビジネス・ユースである場合、自分のビジネス・フィールドの方々、関連ビジネス・フィールドの方々、取引先、顧客などをfollowするのは当然であり、あわせて、フィールドは違えどもビジネスマンとして経営に携わる人、経済学者、経済評論家、マーケター、アントレプレナーなどをfollowするだろう。

それにより、TLには概ね仕事に役立つだろうTweetsが流れてくるのが期待できる。

しかし、Twitterでは、それがそうでもない、ところが面白い。経済人と言えども日常で常に仕事の話をしてる訳ではない。他愛ない日常の細々をTweetsしている事が多い。例えば何処で誰と飯を食った、旨かった、不味かったなどなど。もちろん、業界に携わるか方々、報道ニュースメディアに携わる方々にとっては、何処で誰と誰が飯を食ったというのが、そこで何を話されたかが解らなくても、貴重な情報になることはある。

しかし、何かのイベントがあると、概ねそのイベントの事がTweetsされる。多くの視点によりTweetsの内容が事なり、TL上で議論が交わされる。

……このように多くなっているのがアプリエイトの為のTweetsだ。下手な人はTweets全てにアプリエイトのリンク

を張っている。そうでなければblog、Webサイトへのリンクである。例えばAmazonではTwitterのAPIを使って、AmazonのページからアプリエイトのためのTweetsが出来るようになった。

お薦め本という名目で、ひたすらAmazonのアプリエイトのTweetを繰り返している人もいるようだ。これはあの意味ではスパム行為だろう。また、自己宣伝にこれ努めている人もいるようだ。

ビジネスユースを例に取りどのようなTLをマネジメントするか紹介したが、筆者のお薦めはとにかく興味のある人をfollowする事である。これによりあなたのTLはとても賑やかに、華やかになる。followする人を増やすと、TLをどんどんTweetsが流れていく。一つ一つのTweetを追うことは適わないが、その為にはリストでカバーする方法もある。雑多なTweetsの中に埋もれて、大事なTweetsを見逃していないかと、モニターにかじりつく事もあるかも知れないが、大事なTweetsはTLの中で浮かび上がってくるようになるだろう。

筆者が最初にTwitterにアカウント登録したのは2008年の春頃だったろうか、記憶が定かではない。その後Twitterを利用することなく、最初のアカウント名も記憶の彼方である。それが今年2009年の春頃から、廻りの方々の話の中でTwitterが話題に上る頻度が増え、漸く重い腰を上げたのが、秋口であり、アカウントを再取得しTwitterライフが始まった。

Twitterは親切で、最初にアカウントを取ると、デフォルトでお薦めのアカウントfollowした状態になる。それを眺めながら、ふむふむと言うのがスタートである。その内、経済評論家の勝間さんと歌手の広瀬香美さんの漫才のようなTweetsがTLを埋め尽くす事があることに気が付いた。これは面白いが、

そればかりではたまらない、他の Tweets も見たいと思って、この二人をフォローから外し、リストに登録した。二人の漫才が見たい時はリストを開けば良いのである。これで、筆者のTLの平和は取り戻された。

しかし、興味のある人をどんどん follow して数をー現在600名少々を follow させていたでいる、日々興味ある多くの方々の Tweets に接するのは面白い。ー増やし、リスト分けをしてと、TLをマネジメントしていたが、幾つものTLを見なくてはいけないし、見逃す Tweets はどんどん増えていく、面白い Tweet がとも思っても、既に過去の話題になっていて話題に乗り遅れると言うことが多くなり、あまり楽しくない。

と言うことで、方針変更。リストだけの follow から通常の follow にすべてを変更すると、TLは賑やかさを取り戻し、新鮮な話題が溢れるようになり、そうなると、勝間さんと広瀬香美さんのコンビ（失礼）もTLを埋め尽くすことがなくなった。まだまだ follow する方々を増やすともっと、筆者のTLは面白くなるだろう。

ひっそりと気の合う友人、知人同士で Twitter を利用するのも良いだろうが、筆者のお薦めは兎に角、興味を抱いた方は follow をして follow の数を増やすことである。コントロールはいつでもできる。気軽に follow して、興味がもてなければ follow を止めれば良いだけである。

多くの方を follow して、一つ注意することは、Tweets 内のリンクは全てが良い物ではなく、ア

フリーエイトのリンクくらいはカワイイ物で、中には、フィッシング・サイトのように偽のWebサイトへ誘導するもの、ウイルスに感染させて個人情報などを盗むことを目的とした物もある。ネットワークの常識として不用意にリンクをクリックすることを自制した方が良さだろう。特に、Tweet内のリンクは短縮URLサービスを利用して実際のURLを短縮している場合が多く、一目見ただけでは何処へリンクされているか解らない。短縮したURLの元のURLを表示できるアドオンフツー但し、Firefoxの物は見つかったが、IE用の物が見つからない、ご存じの方はお願いします。——もあるので有効活用し、自分なりのルールを作ることが必要だろう。

再度お薦めするがfollowする人を増やせばそれだけTLを流れるTweetsは新鮮になり、賑やかに面白さは増す。Twitterが成熟すれば更に面白くなるだろう。followしてfollowしてTwitterをどう使うか見えてきたらその時、リストを活用するなどのTLマネジメントも方向性が定まるだろう。

自分のTLに新鮮なTweetsがどんどん流れるようにマネジメントするのがTwitterライフのあり方である。

Twitter の クライアントソフト・Web
サービス

Twitter Search、Twipic、ふあぼったし、
Twilog、twinaavi など。



Twitterのクライアントソフト・Webサービス

HootSuite

ブラウザでTwitterを閲覧、書き込み、follow、DMのやりとり、などなど多くの操作ができるサイト。いくつかクライアントソフトを試して、今はこれに落ち着いている。一番の利点はTLとMention @アカウント宛のTweetsの両方が表示できる点、また、TLのオートリロード。但し、リロードの感覚が2分間隔とちよつと遅い。API制限は1分間隔であるはずもう少し早めにしてもらえると嬉しい。

<http://hootsuite.com/>

Twitter Search

Tweetsを検索できるサイト。これがTwitter社の言うリアルタイム検索の一般に開放されている窓口になる。
<http://search.twitter.com/>

リアルタイム検索はビジネスアカウント用に有料サービスも行なっている。この有料サービスでは個々のTLだけでなく、WorldwideのTLに流れる全てのTweetsの中から必要なキーワードによって、クライアントのサービス、

商品等などに関連する Tweets を收拾してデータベース化、分析する事が可能である。

Twipic

写真投稿用のサイト。写真をアップロードし、コメントをつけそのコメントを Twitter にポストできる。
<http://twipic.com/>

その他の Web サービス。

ふあぼったー

自分の Tweet が他の人により favorite に登録されているかどうかを調べることが出来る Web サービス。
<http://favotter.matope.com/>

Twilog 「ひいろぐ」

自分の Tweet のログを取得できる Web サービス。
<http://twilog.org/>

twinavi

Twitterの公式ナビゲーション・サイト

<http://twinavi.jp/>

その他にも色々なサービスがあるのでちょっと検索してみると良い。

Twitter はおもしろい

百人いれば百の面白さ、千人いれば千、万、千万、億の面白さがある。

E

Twitterはおもしろい

Twitterは面白い。百人いけば百の面白さ、千人いけば千、万、千万、億の面白さがある。つまりその面白さは人それぞれである。ジャーナリストでありTwitterについての著書を著わしている津田氏と、経済評論家で良いのかなの勝間さんとの津田氏の著書「Twitter社会論」の付録として収録された対談では、ある種パソコン通信の熱を思い起こさせると意見の一致を見ている。筆者もかつてパソコン通信に加入していたのでその意味するところは理解できる。また、SNSであるSNSの初期の面白さがあるというのも良く聞かれる。

筆者は、パソコンはオフィスツールであるだけでなく、コミュニケーションの為のツールでありネットに繋いでなんぼというのが信条である。その筆者がパソコンを購入して一会社勤めであったので、もちろんビジネスツールとしてオフィスオートメーション為のワープロ、表計算ソフトは購入した、当時はまだパソコン用のデータベースソフトはなかった。一最初にやったことはビジネスソフトの購入とあわせて、パソコン通信用のモデム、通信ソフトの購入とパソコン通信への加入であるのは当然である。

パソコン通信がなければ多分、インターネットの普及を待たず、自分でパソコンを購入する

ことはなかったかも知れない。勤め先ではワープロ専用機からオフィスコンピュータを導入して端末からワープロなどを使っていたが、パソコンはかなり高価であり、二の足を踏んでいただろう、というのはちよと言い過ぎかな。

そうすると、関東逋信局へ申請して一般第二通信事業の許可を取得し、アクセスプロバイダー業、Webなどなどのサーバー管理、運営、B2Bのビジネス・マッチングサイトの運営、メールリングリストの管理、運営、メールマガジンの編集、発行など一連のネットワーク関連の仕事はやっていないだろう。なんと当時はCクラスのネットワーク空間を割り当てて貰うことができた。

合わせて、SUNのワークステーションでSolarisに触れることも、その後PCサーバーでFreeBSDにも触れることもなかっただろう。ということ、両者の謂わんとするところは良く理解できる。

しかし、それだけではない。

面白さは人により千差万別。あはは、と笑う面白さもあれば、くすつと、くすぐられる面白さもある。また、興味深いという面白さもある。でなければ、電車、カフェなどでふと耳に入ってくる他人同士の会話の面白さ。これら面白いという意味の全てを包括するのがTwitterではなからうか。

現在、世界の Twitter ユーザー数は 97,174,674 人もうすぐ 1 億人を突破する。日本の Twitter ユーザー数は TMedia の 12 月 10 日の記事にあるネットレイティングスの調査によると

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/0912/10/news051.html>

ユニークユーザー数が 8 月に 230 万が 9 月に 253 万と伸び、しかし 10 月には 200 万と戻しているが、ページビューは 8 月に 5259 万 3000 だったものが、9 月には 4055 万 1000 に減少し、10 月には 6382 万 3000 と再び伸びているので、利用自体が減ったのではないようだ。

現在 Twitter に流れる Tweets の大半は英語による物だが、2009 年 12 月 16 日の世界の Tweets をひたすらトラッキングし、分析している tweeps.info による Tweets 数ランキング・トップ 20 の中に 5 つの日本人によるアカウントと思われる物が含まれている。

<http://tweeps.info/>

Tweets のトラフィックが多ければ良いというのではないが、全世界のユーザー数のわずか 2%

程である日本のユーザーからの Tweets 数が全体のトラフィックの 20% 程を占めているという調査もあつたと記憶している。そのニュースを見つけられなかったので、記憶の誤りかも知れないが。

しかし、英語による 140 文字と日本語による 140 文字ではその中に込められる情報量がかなり違う、アルファベットなどの表意文字しか持たぬ言語での Tweets よりは多くの情報を発信できる日本、中国などのユーザー数の増加が今後まだまだ見込まれている。

今後 Twitter にどのような機能が付加されるか解らないが、iPhone などの携帯デバイスが普及すれば、さらなるユーザー数の増加は確実である。現在の Twitter ユーザーはイノベーターとアーリーアダプターであろう、既にキャズム越えはなされ、アーリーマジョリティの参入も見られるという意見もあるが、どうであろうか。しかし、その時がすぐそこまで来ているのは確かである。

また、機能の紹介の中で書いたように位置情報の取り込みが行なわれれば、それに付随した価値あるサービスはいくらでも考えられるだろう。ケイタイによる有料のコンセルジュ・サービスと同じようなサービスが Twitter 上では有料、或いは無料で始められるのではなからうか。今どこにいて何がしたいと Tweet するだけで、自らの要望を満たしてくれる様々な Reply、Retweet が返されて来る時が来るだろう。

さらに、iPhoneのアプリケーションである世界カメラとの関係も囁かれている。商品につけられたデジタルタグが、そのままTwitterのタグとしてTweetsにより広まっていく時が来るだろう。でなければ写メにより自らがデジタルタグをつけてTweetすることで、レアで新鮮な情報はTLを駆けていく。

また、Ustream.tv(ユーストリーム)というライブストリーミングで動画を公開する無料のサービス—まさにドキュメンタリーのマイクロTVと言えよのだろうか—があり、講演会、会議などの動画による中継が行なわれ、室内にいながら、その情報を共有し、Twitterにより議論に参加することも行なわれている。その会議、議論へのネットワーク上の参加者は居ながらにして容易に新たな知見を得ることが出来るのである。

このようにTwitterは独自で、或いは他のサービスとの共用で、様々な事が可能である。自分のアイデアで独自の使い方を模索するのも面白いだろう。

Twitterのサービスをフルに活用して、自分の求める物をリサーチするにも面白いが、それだけではなく、ただTLを流れていくTweetsを眺めているだけで、脳の様々な部分が刺激される。それは、森にいて耳を澄ますと、小鳥のさえずり、虫の声、葉擦れの音、風のささやきを感じるのと同じかも知れない。オープンエアのカフェに座り、通りを行き交う人々を、ぼーっと眺めているだけで、言葉、会話、光、音、色、匂いなどに五感が刺激され、様々な着想が現れる。つ

まりそれと似たような刺激を受けることができ、¹の中からポンと文字が浮かび上がって来るとも知れない。それが求める答えであるなら、明日の着想であるなら面白いではないか。

と、事ほど左様にTwitterはおもしろい。

終わりに

面白い事を面白いと書くのは難しい。Twitterの中で時々解らない言葉と出合うことがある。これはやはり、Twitterというコミュニティの中の独自の用語なのだろう。本書の中ではそんな独自用語は使っていないはずなので、読者の皆さんには解っていただけとは思う、というより、自分で解っていない言葉が使えるはずもない。

ところで、今や日本のTwitterの中で、もっとも有名な歌手と言えば広瀬香美であろう。ゲレンデの女王、冬の女王と呼ばれていた、広瀬香美がTwitterの女王となつて、作詞作曲したTwitterの曲「ビバ☆ヒウイツヒヒー」と言うのがある。ヒウイツヒヒー一体何のこっちゃやそれと思つていたが、この文章をまとめるに当たつて、なんだべさ、と調べてみた。

Twitterのフォントの「t」がカタカナの「ヒ」に見えることに広瀬香美が食らいつき、彼女曰く「決定！Twitterの源氏名は、、、ヒウイツヒヒーに、決定！」だそうだ。

<http://twitter.com/kohmi/status/2778611620>

なんとも。

「ビバ☆ヒウイツヒヒー」の制作に関しては広瀬香美のオフィシャルサイトのBlogを見ると面白い。

ビバ☆ヒウイツヒヒー制作完全レポート前編

<http://www.hirose-kohmi.jp/blog/?p=1006>

ビバ☆ヒウイツヒヒー制作完全レポート後編

<http://www.hirose-kohmi.jp/blog/?p=1031>

ビバ☆ヒウイツヒヒー（ここで歌が聴ける）

<http://www.hirose-kohmi.jp/blog/?p=953>

とうとうこつて、Twitterはおもしろい、Have a happy twitter life!

岩本隆介

フードビジネスコンサルタント

LDKS LLC 代表

立教大学教授王利彰先生のフードビジネス・コンサルタント・ファーム清晃を経て独立。在社時はキッチンデザイン、調理システム開発を主たる業務とし、インターネット関連ISP事業の管理、運営、Webサイトの構築、メーリングリスト、メールマガジンのサーバー構築、管理、運営なども受け持つ。

2006年LDKS LLC設立。フードビジネスにおける新業態開発、新コンセプト開発を中心に総合的なコンサルタント業務。合わせて月刊のオンラインFood Business eMagazineの発行、Webサイトのディレクションを行なう。

Twitter おもしろ論

2009年12月発行

著者 岩本隆介 @eMags_lwa

発行者 岩本隆介

発行所 LDKS LLC

〒228-0011

神奈川県座間市相武台2-187-2

080-1023-1359

<http://www.ldks.com>

<http://www.e-concept.jp>

<http://www.e-mags.jp/ebooks/>

<http://www.e-mags.jp>

editor@e-concept.jp

Editorial Design iwamoto ryusuke

Copyright © LDKS LLC All Rights Reserved

Dragon eBooks

Dragon eBooks はPDF ファイルで公開しています、オンラインのフリービジネス・マガジン Food Business eMagazine に連載しております記事を、新書版サイズでポータブルな冊子にまとめて公開いたします。また、その他に仕事で撮り貯めた写真、eMagazine に載せていない文章も何かの役に立つようまとめたいと考えています。

ところで、なぜ、Dragon eBooks なの、会社名の LDKS eBooks で良いじゃないかと思われるかもしれません。

と言うわけで、ちょっと。会社名 LDKS LLC の LDKS — これは正式な会社名なのです。アルファベット表記がいつから OK になったのか調べていませんが、会社法が改正され施行される 2006 年 5 月に合わせて、会社を登記する為にいろいろ調べている時に知りました。それまではカタカナでエルディケイエスとしようか、イーコンセプトにしようか、等と考えていました。

LDKS は

- Laborer cost Down Kitchen Solution
- Life Design Knowledge Studio
- Living Dinig Kitchen Studio
- Lucky Dragon Kingdom Saga

などなど。私の名前に Dragon が隠れていますし。:-) 蛇足ながら eBook はオンラインで読むことのできる本です。Dragon eBooks はすべてオンラインでご購読いただけますよう考えておりますので、これからもよろしく願いたします。

5.1mm 小さくなった地球で、皆様との距離が少しでも近づいた今日この頃。

LDKS LLC

岩本隆介

2009 年 12 月 30 日

Dragon eBooks



LDKS LLC

Phone 080-1023-1359